

吹田操車場遺跡の調査

吹田市教育委員会
公益財団法人大阪府文化財センター
平成27年3月7日

はじめに

吹田市教育委員会と公益財団法人大阪府文化財センターでは、市立吹田市民病院の移転建替に伴って、移転先（吹田市芝田町）における埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。

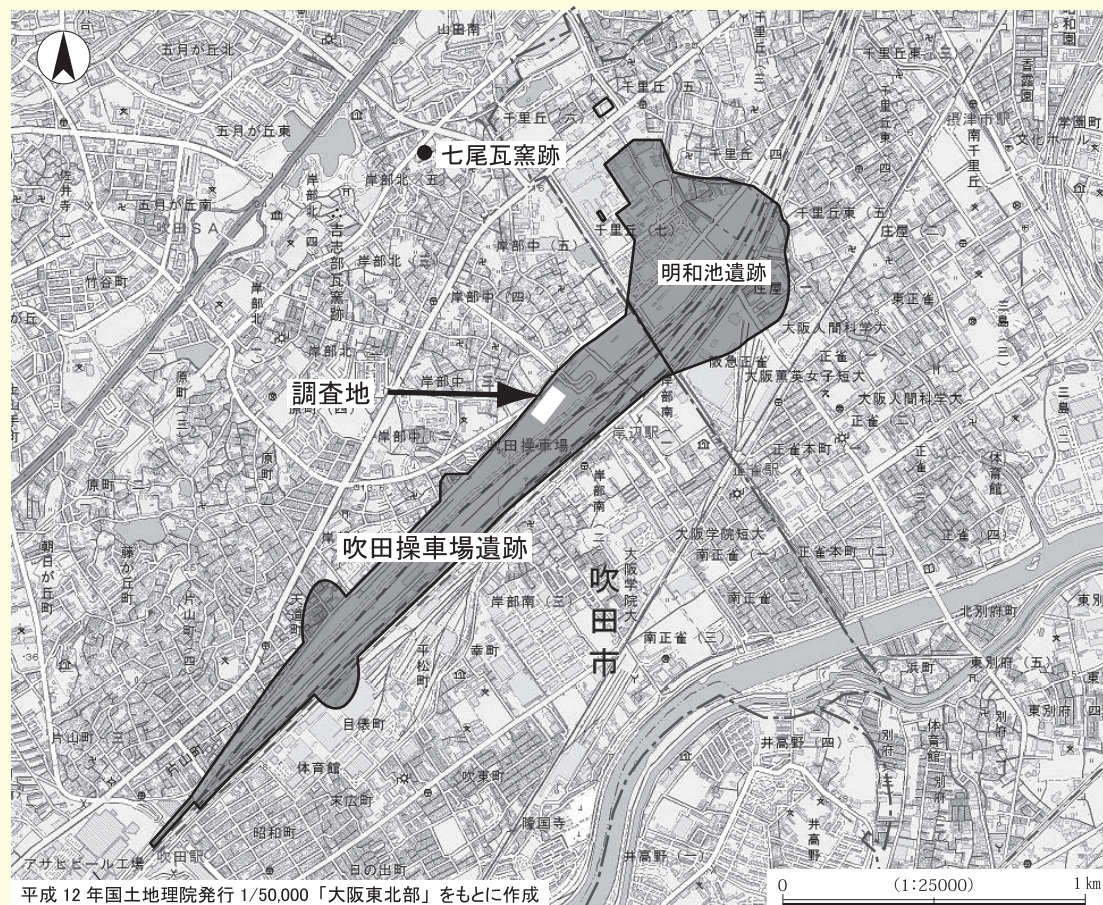
市立吹田市民病院の移転先にあたる吹田操車場遺跡は、かつて JR 吹田駅から千里丘駅までの間にあった吹田操車場の跡地を中心とする遺跡です。

当遺跡でのこれまでの調査では、古墳時代から奈良時代までの粘土採土坑や、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物、鎌倉時代から室町時代にかけての畠や井戸などがみつかっています。

今回の調査成果

今回の調査では、古墳時代から平安時代にかけての谷地形、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物と土地区画を目的とした溝、鎌倉時代から室町時代にかけての井戸などがみつかりました。とくに、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物が複数棟みつかったことから、現在の岸边駅付近には、奈良時代から平安時代の集落があったと考えられます。また、今回調査した調査区のうち最も西端に位置する調査区では、建物の痕跡はみられず谷状の地形が広がっていたことがわかっています。そのため今回公開する調査区の西側が古代の集落の西端になる可能性が考えられます。

出土遺物は、古墳時代後期（6世紀）ごろの須恵器・土師器、飛鳥時代（7世紀）の須恵器・土師器、奈良から平安時代の須恵器・土師器・瓦・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器、鎌倉から室町時代の須恵器・土師器・瓦器・青磁・白磁などです。奈良から平安時代の須恵器の中には、硯に転用したものもあります。また、出土した瓦のなかなおがようあとには、調査地の北約1 km の地点にある、後期難波宮の瓦を生産した七尾瓦窯跡で生産されたと考えられるものも含まれています。



平成 12 年国土地理院発行 1/50,000 「大阪東北部」をもとに作成

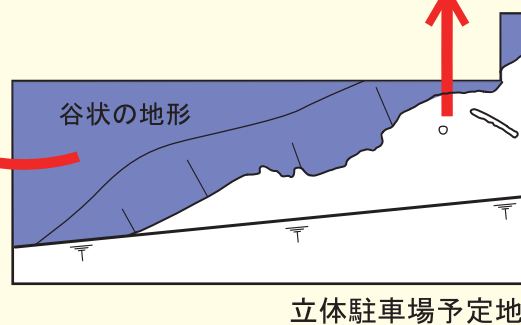


UR 都市機構発行パンフレット「吹田操車場跡地まづくりプロジェクト」掲載地図をもとに作成

●古墳時代から平安時代まで存続した谷状の地形
中世（鎌倉時代頃）には埋まってしまいます。



●奈良時代の瓦を投棄した穴



●中世（安土・桃山時代）の溝

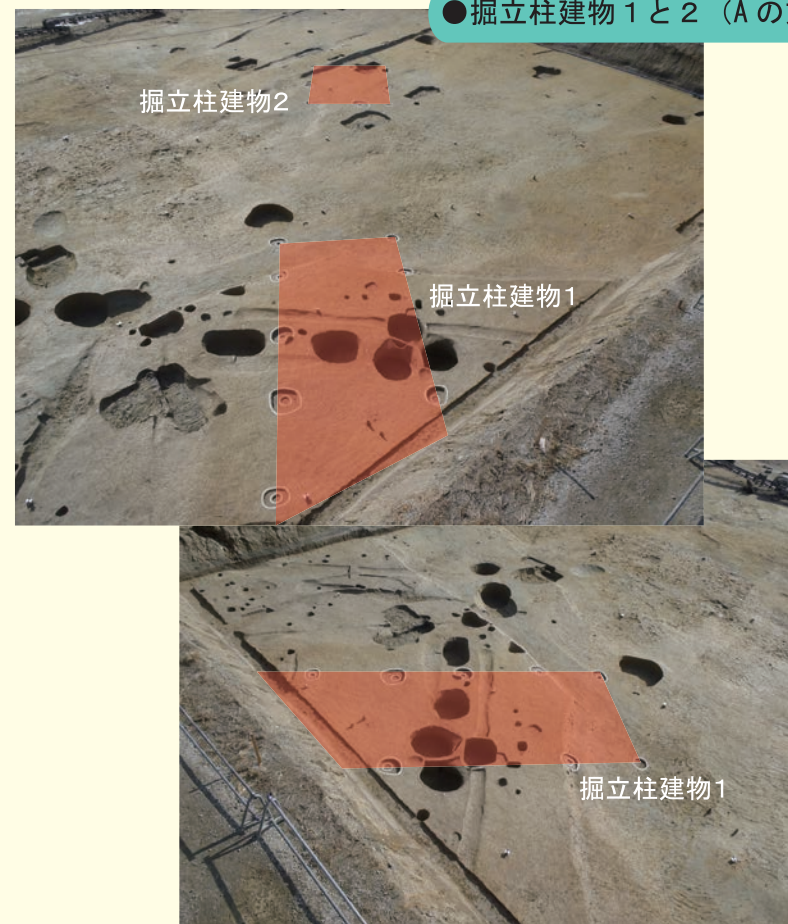


防火水槽予定地

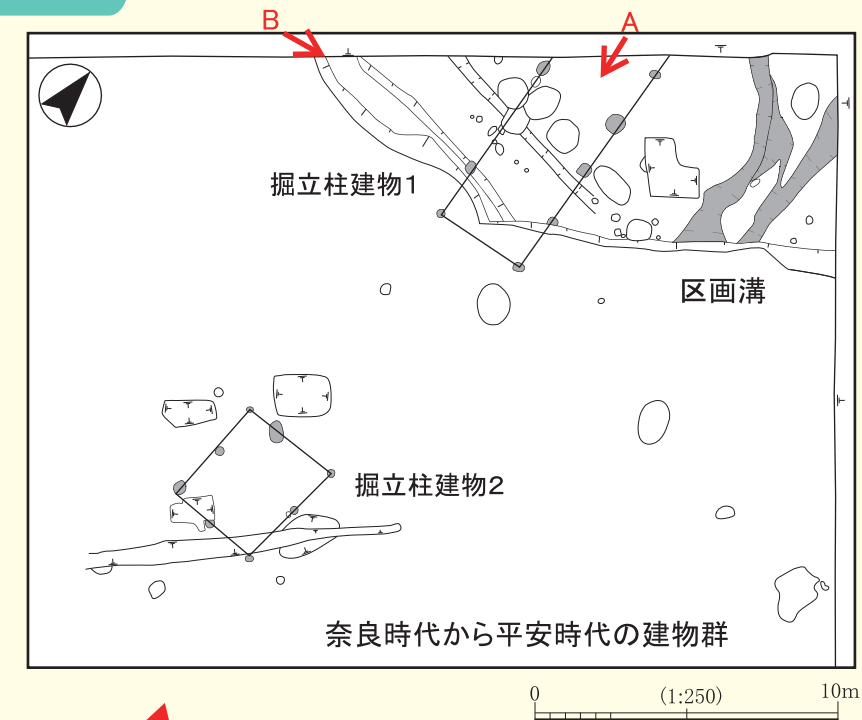
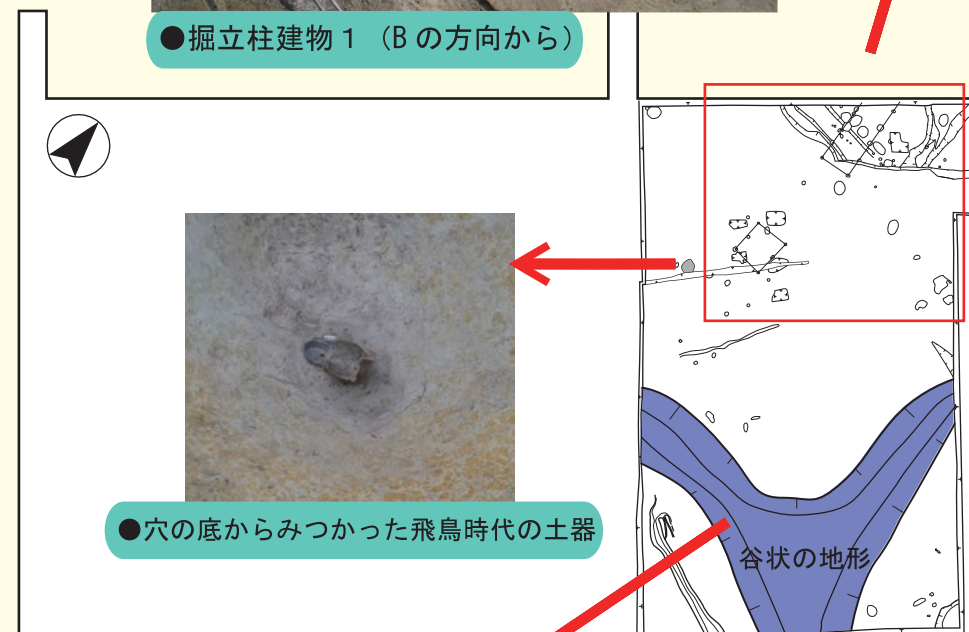


●古墳時代から平安時代まで存続した谷状の地形
左上の谷同様、中世（鎌倉時代頃）には埋まってしまいます。

●掘立柱建物 1 と 2（A の方向から）



●掘立柱建物 1（B の方向から）



●今回の調査で出土した主な遺物
須恵器・瓦・緑釉陶器（奈良～平安時代）
青磁・白磁（鎌倉時代）



病院棟予定地

吹田市新市民病院移転建替事業に伴う吹田操車場遺跡の調査 現地説明会資料

編集・発行 公益財団法人大阪府文化財センター
〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁目21番4号
発行日 平成27年3月7日

